

## 福島県金融経済概況

### 1. 概 況

県内景気は、世界的な景気減速の影響を受け、生産の減少幅が拡大しているほか、個人消費にも弱い動きがみられるなど、悪化が続いている。

すなわち、最終需要をみると、個人消費では、雇用不安や景気の先行き不透明感の強まりから消費者心理が冷え込んでおり、弱い動きがみられる。住宅投資は、小型賃貸物件の着工減少を背景に、前年を大幅に下回った。公共投資も大型案件の発注から前年を上回ったものの、水準としてはなお低調に推移している。設備投資については、受注減少や収益悪化から製造業を中心に下方修正する動きがみられる。

こうしたもとで鉱工業生産動向をみると、内外需要の急速な落ち込みから在庫が急増しているため、生産水準をさらに引き下げている。

雇用面では、製造業における雇用調整の動きが強まっており、一段と厳しさが増している。

消費者物価指数は、円高や原油価格下落を背景にほぼ前年並みとなったが、食料品が高止まっており、家計への影響は払拭されていない。

### 2. 最終需要動向

雇用・所得環境の悪化や景気の先行き不透明感の強まりから消費者心理が冷え込んでおり、個人消費は弱い動きを示している。

- 大型小売店売上高は、食料品が比較的底堅く推移しているが、節約志向を映じて衣料品、身の回り品を中心に再び前年割れとなった。
- 新車登録台数は車種を問わず大幅な減少が続いている。
- 家電販売は、値下げ効果がみられるものの、デジタル家電を中心に弱い動きとなっている。
- 国内外への旅行動向、県内主要観光施設や温泉地への入り込みはいずれも低調に推移しており、レジャー支出を抑える動きが強まっている。

設備投資は、受注減少や収益悪化から製造業を中心に下方修正する動きがみられる。

住宅投資は小型賃貸物件の着工減少を背景に前年を大幅に下回った。

公共投資は、大型案件の発注があったことから前年を上回ったものの、水準としてはなお低調に推移している。

### 3. 鉱工業生産動向

生産面をみると、内外需要の急速な落ち込みから在庫が急増しているため、生産調整の動きが一段と強まっている。特に、輸送機械、電気機械、一般機械、精密機械では一段と減産している。また、こうした動きは素材業種にも波及しており、非鉄金属、化学、紙・パルプでも、生産水準を引き下げる動きが強まっている。

### 4. 雇用動向

製造業の雇用調整の強まりを背景に、雇用・所得環境は一段と厳しさが増している。

- 有効求人倍率は悪化し平成14年12月以来の低い水準となった。
- 人員整理は増加傾向が続いている（11月：411人→12月：570人<前年比2.4倍>）。
- 所定外労働時間は、製造業での大幅減少を主因に前年比減少幅が拡大している。
- 雇用者所得は2か月連続で前年比マイナスとなった。

### 5. 金融情勢

銀行券受払高は年末需要期を迎えて平成20年中最大の発行超となった。

実質預金は個人預金の増加を主因に前年を上回った。

貸出は、住宅ローンや運転資金需要の増加等から、全体では前年比プラス幅が拡大した。

貸出約定平均金利（総合<含む当貸>）は、地元地銀・第二地銀、信金とも前月を下回った。

企業倒産件数は前年を下回ったものの、高水準で推移している。

以 上